

経済成長と国営企業の民営化、新規上場により市場は拡大する見通し

- ▶ ベトナムは共産党主導の下、市場経済への移行を進め、自由貿易を活発化することで大きく発展しています。2007年にWTO(世界貿易機関)に正式加盟し、その後も各国・地域との包括的貿易協定を積極的に締結しています。2015年に発足したASEAN経済共同体(AEC)に加盟しており、ASEAN域内における関税撤廃が2018年1月までに実現する予定です。

海外からの直接投資額が拡大、中間所得者層の台頭とともに経済成長をけん引

- ▶ 経済開放政策が功を奏し、2016年の海外からの直接投資額は158億米ドルに達し、過去最高となっています。製造業における労働賃金は、中国の半分以下*といまだに安価であり、今後も海外からの投資増が期待できます。
- ▶ ベトナムの2016年の実質国内総生産(GDP)成長率は、前年比+6.21%と高い成長を示しています。2016年の労働生産性の伸び率も前年比+6.42%と2015年の同+6.29%を上回り、労働効率が高まっています。
- ▶ ベトナムの人口は9,264万人と、タイの人口を上回ります。人口の70%強が45歳未満**であり、ASEANの中ではインドネシアに続いて労働人口が多い国です。若い世代は、将来の生産者であり消費者でもあります。今後は中間所得者層の増加により、内需も順調に伸びていくものと思われます。

出所:CEIC、イーストスプリング・ベトナム、各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

*ジェトロ「メコン地域における投資環境の現状」、**国際連合「World Population Prospects: The 2017 Revision」のデータを参照。

外国人持株比率規制の緩和、国営企業の民営化、新規上場による投資機会増

- ▶ ベトナムでは外国人株主の影響を懸念し、上場企業の外国人持株比率は、銀行が30%、石油ガス・不動産業などは49%までとなっています。その他の企業については、企業からの申請に対して政府が個別に許可する形式です。政府は、銀行に対する同比率の上限引き上げを明言しており、規制緩和が進むものと期待されています。
- ▶ イーストスプリング・ベトナムのリサーチでは、規制緩和に加え、国営企業の民営化および政府保有株の放出、一般企業の新規上場の増加により、今後3年間で株式市場は大きく拡大すると見えています。

<ベトナムとタイの比較 (2016年時点)>

ベトナム



人口: 9,264万人
名目GDP: 2,013億米ドル
一人当たりGDP: 2,173米ドル

タイ



人口: 6,898万人
名目GDP: 4,069億米ドル
一人当たりGDP: 5,899米ドル

出所:IMF世界経済見通しデータベース(2017年4月)のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

コラム:「ベトナムのサンドイッチ:バインミー」



ベトナムはかつてフランスの植民地であったことから、フランスパンが広く普及しています。バインミーは、ベトナムのサンドイッチで、長さ20cmほどのフランスパンに切り込みを入れ、バター、パテを塗り、野菜、ハーブ類、肉などをはさんだものです。最近では都内で人気が高まり、いくつかの専門店がオープンしています。

写真提供:日本ASEANセンター

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。